

道の一句

名句鑑賞

熊野古道奥へと誘ふ落椿

橋本美代子

おとずれた熊野古道、その途中に椿が落ちています。この奥にはもつと何かすばらしいものがありそうだ、そこへ行ってみよう。そんな思いに駆り立てられるのです。真つ赤な椿が見えてきて、印象的です。季語は「落椿」で、春の句です。



葉桜や記憶の道は広かりし

八染 藍子

葉桜の道です。いつか、小さいころに、母につれて来てもらったなつかしいところです。私の記憶に残っているこの道は、もつともつと広がったように思うのですが…。そんな、道です。季語は「葉ざくら」で、夏の句です。

月光にぶつかって行く山路かな

中村 汀女

あふれるばかりの月の光です。旅の途中でしようか。それとも、裏山へでも歩きに出たのでしょうか。いずれにしても、からだ全体に月光が降りそそいでいるのです。作者独特の美的世界が展開されています。季語は「月光」で、秋の句です。

足音のいつかひとつに雪の道

中村 汀女

道があるいているときのようですが、何人かの人と歩いてきたのに、少しずつ別れて、いつの間にか一人になったということでしょう。また、自分の一つのリズムになっただけの間に気がついたと考えるのもいいでしょう。季語は「雪の道」で、冬の句です。

写生と説明

俳句は写生とよく言われています。いま、目の前にあるもの、見えているものを、そのまま五七五にしないということですが、そうすればみんないい俳句になるのかというと、そうではありません。あれもこれも取り入れると、説明をしているだけになってしまいます。

いっしょけんめい見て、面白いと思ったことや、こんなことに気がついたということだけを書くことが大切です。

それが、発見といわれるもので、写生の決め手になるものです。

何もかも言わずに、一番言いたいこと、伝えたいことを一つだけ言うのが、いい俳句を作るポイントになります。



ふどもの俳句から

春

学校へいく道どこもさくらの木

小学生
鏡

留奈



鑑賞のポイント

☆「どこも」からどんな所が見えてきま
すか。
季語は、「さくら」です。

春の道人との出会い待っている

中学生
澤

由佳

☆「春の」といえば、季語になります。
例えば、春の山、春の川、春の風など
です。出会いを待つ気持ちのポイント
です。季語は、「春の道」です。

夏
道ばたのひまわりみんな同じ向き

小学生
谷本あゆみ

☆「同じ向き」に、どんな思いがあるの
でしょうか。季語は、「ひまわり」です。

のぼり坂一息つけば蝉の声

中学生
畑中 美貴

☆同じ蝉でも、ひぐらし、法師蝉は秋の
季語です。暑さの感じ方の違いを考え
てみてください。季語は、「蝉」です。

秋

わかれみちみぎもひだりもあきのかぜ

小学生

伊藤 隆

鑑賞のポイント

☆「わかれみち」に来たときの気持ちを
思ってみてください。季語は、「あき
のかぜ」です

流れ星空と空とを結ぶ道

中学生

村林 英典

☆「流れ星」は、八月中旬ころに一番
多いので、秋の季語になっています。
空のようすを想像するとおもしろいで
すね。

冬

ランドセル北風の道カタコトと

小学生

木本 有佳

☆この句の中心はランドセルの音です。
季語は、「北風」です。

どの道も先は見えない寒椿

中学生

川岸 兼資

☆季語は「寒椿」で、早く咲く椿のこと
で、冬椿ともいいます。
「椿」だけなら春の季語です。
不安な気持ちがかかりますか。

